

2019 年度 第 2 回 日本臨床検査医学会 臨床検査専門医・管理医審議会 議事録

日 時：2019 年 8 月 31 日（土）10：30～12：00

場 所：日本臨床検査医学会 事務所

出席者（9 名）

矢富 裕（委員長；理事長）
山田俊幸（副委員長；専門医担当、副理事長）
村上正巳（研修施設・指導者認定委員長）
菊池春人（受験・更新資格審査委員長）
宮地勇人（試験委員会委員長）
木村 聡（臨床検査専門医制度検討委員長）
古川泰司（2018-2019 臨床検査専門医試験実行委員長）
東田修二（2018-2019 臨床検査管理医試験実行委員長）
佐藤尚武（日本臨床検査専門医会代表）

欠席者（1 名）

橋口照人（教育委員長）

矢富裕委員長より開会宣言の後、議事を進行した。

1. 第 11 回臨床検査管理医認定試験実行委員会報告（2019/8/4, 帝京大）（東田修二 管理医試験実行委員長）

2019 年 8 月 4 日に帝京大学で、臨床検査専門医試験と同時に第 11 回臨床検査管理医 講習会・認定試験を実施した。年齢別では、20 代 1 名、30 代 9 名、40 代 13 名、50 代 8 名、60 代 3 名の計 34 名が受験し、冒頭で臨床検査専門医の受験の紹介をしたことが報告された。

管理医試験での各受験者の成績表が提示され、32 名が合格基準に達していることが確認され、合格と判定され承認された。

なお、試験終了後に受験者に受験動機のアンケート調査を行なった。臨床検査部門の責任者のため、臨床検査検体管理加算取得のためが上位であった。

2. 試験委員会報告（宮地勇人 試験委員会委員長）

8 月 4 日の試験委員会での審議内容が報告された。

合否基準について、再確認した。昨年から変更となったのは、総合合格の基準は平均 60 点以上かつ 40 点未満の科目がないこと、総合で不合格であっても、合格基準以上の点数の科目は、科目合格として、次年度以降の再受験は残りの科目を受験するとしたことである。

筆記問題ブラッシュアップの最終的作業を効率的に行えたこと、科目間で内容的・書式的な調整、出題形式や用語の統一化を行ったこと、筆記 MCQ は、正答率、識別指数から、問題内容を検証したこと、判定基準に基づき、判定作業を行ったことが報告された。

2020 年度実施第 37 回臨床検査専門医認定試験について、東田修二次期の実行委員長から東京オリンピック対策について提案がなされ、それに基づき意見交換したことが報告された。

3. 第 36 回臨床検査専門医認定試験結果について（2019/8/3-4, 帝京大）（古川泰司 専門医認定試験実行委員会委員長）

2019年8月3日（土）、4日（日）、帝京大学板橋キャンパスで、第36回臨床検査専門医認定試験を実施した。受験者は合計34名（初回受験30名、全科目再受験2名、2科目再受験2名、欠席1名）であった。

8月3日（土）に筆記試験、8月4日（日）に実技試験実施した。

受験者1名が、試験前々日に骨折をしたため、ERの車椅子等で対応した。

今年は、試験を一つの建物で実施し、昨年より導線を短くすることができた。

採点集計結果と、8月4日（日）に合否基準により試験委員会と試験実行委員会の合同委員会の判定会議で協議した判定結果が提示され、協議された。

その結果、判定会議のとおり、初回受験者30名および全科目再受験者2名の32名について、総合合格は28名（合格率87.5%）、この不合格と判定された4名は、この度の措置により、クレジット2-3科目が認定され、次年度は2-4科目受験となり、2科目受験者の2名については合格と判定された。

受験者への合否結果は、第34-35回の方針のとおり、合格者は、合否結果のみとする。

不合格者には、合否結果と講評とし次の受験の参考になるようにし、再受験必要科目は明記する。

と提案がされ、協議のうえ、合格者でも研鑽が必要な科目がある場合は、講評を添付することとなった。

現時点における第36回臨床検査専門医認定試験会計報告が提示された。収支差額は約51万円であり、昨年より残額が増えた。これは、バーチャルスライド費用がなかったためである。最終的な報告は次回の審議会で報告されることとなった。

4. 臨床検査管理医更新規定の一部改定について（山田俊幸副委員長専門医担当理事、第12回管理医試験実行委員長、菊池春人 受験・更新資格審査委員会委員長）

臨床検査管理医更新単位として、学術集会または特別例会の参加単位を、学術集会1回分のe-learning受講で振り返ることが可能とする改定案が提示され、承認された。

5. 第37回臨床検査専門医認定試験について（東田修二次期専門医認定試験実行委員長，山田俊幸第12回管理医試験実行委員長）

2020年度に実施する専門医と管理医試験の時期と会場の検討案が東田修二委員長から提示された。

2020年度6月～8月は、東京オリンピックのうえ、関連学会の学術集会や認定試験が続いている。

それを踏まえ、6月、9月の土日東京開催、8月の土日東京以外での開催、日曜1日関東での開催などの案が示された。

それぞれを検討し、9月12日-13日、東京での開催を第1候補とすることになった。

そして、試験時期が早まったり、時間を短縮する可能性があるため、臨床検査専門医試験実行委員会委員については、全員留任で依頼したいことが報告された。

6. 次期試験委員会委員について（山田俊幸 次期試験委員長）

2020年1月から臨床検査専門医認定試験に関する検討を開始したいため、下記2020年度試験委員会委員（案）が提案され、承認された。

委員長：山田俊幸

副委員長：古川泰司

- ・臨床検査医学総論：三宅一徳
- ・一般臨床検査学・臨床化学：吉田 博
- ・臨床血液学：佐藤尚武、田部陽子
- ・臨床微生物：木村 聡
- ・臨床免疫学・輸血学：山田俊幸

- ・ 遺伝子関連検査学：田部陽子（遺伝子関連検査は 2021 年度新制度試験から独立）
- ・ 臨床生理学：古川泰司

7. 日本専門医機構 専門医養成数に関する検討協議会専門医要請数についての専門医機構ヒアリング（資料準備について）（山田俊幸 副委員長，専門医担当理事）

9月19日（木）15:00～17:00に、日本専門医機構 2021年度の専門医養成数に関する検討協議会（シーリング協議会）が、当会、病理学会、形成外科学会、リハビリテーション医学会を対象として開催されるが、その際の当会としての資料についての相談がされた。

法改正、ISO15189について、衛生検査所の指導監督医として専門医が必要であること、がんゲノムと難病にもふれてほしい、専門医の必要性を訴える、などの意見がだされ、山田専門医担当理事がまとめることとなった。

8. 第66回学術集会“RCPC challenge”（医学部学生・初期臨床研修医を対象としたRCPC勉強会）参加者への補助について（山田俊幸 副委員長、ワークライフバランス委員会担当理事）

第66回学術集会“RCPC challenge”に参加する研修医15名程度に対して、学術集会参加費を無料としたい旨、相談がなされ協議され、まずは、第66回学術集会の通山薫会長に要望すること、それが難しい場合は、学会から補助することで承認された。

9. 第3回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオセミナー報告（東京）（山田俊幸 副委員長，ワークライフバランス委員会担当理事）

第3回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオセミナーは、8月18日（日）、東京大学医学部附属病院検査部で、12名が参加して、臨床検査専門医のキャリアパス、感染症ケーススタディー、腹部エコーハンズオンセミナー、懇親会をプログラムとして開催し、大変、好評であったことが報告された。

10. 第4回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオセミナー報告（近畿支部）

（山田俊幸 副委員長、ワークライフバランス委員会担当理事）

第4回医学生・研修医のための臨床検査ハンズオセミナー報告（近畿支部）が、9月8日（日）、大阪大学医学部附属病院臨床検査部で開催予定であるが、現時点、参加希望者が8名定員のところ2名であり、開催を予定していること、参加者を再募集する予定であることが報告された。

6. その他（矢富 裕 審議会委員長）

1) 日本臨床検査専門医会教育セミナーの講師については、当会試験委員、試験実行委員ではないことが望ましいとなった。

2) 臨床検査専門医認定試験の問題について、第31回試験（2014年）以後の問題を臨床病理誌に順次公開中である。

今後は、新作問題は一部にして、過去問から識別指数の高い良問を選んで出題する提案があったが、過去問のストックは、そこまで多くないことが分かり、例年通り、作成していくこととなった。

3) 臨床検査振興協議会で検討していた「りんしょう犬さん」のLINEスタンプが、LINEに公開されたことが報告された。

次回の臨床検査専門医・管理医審議会 開催日程が報告され、本会議は閉会された。

- ・ 第3回：2019年12月20日（金）13:00～14:45